

近畿大学医学部奈良病院では

「StageII/III 胃癌に対する胃切除後補助化学療法患者の予後に関する因子の検討」を行っております。

登録・研究の目的と意義

ステージII/III胃癌に対する標準治療は、手術+TS-1の1年間内服による術後補助化学療法であること(ACTS-GC Study)が、胃癌治療ガイドラインで示されています。しかしながら、その完遂率は、65.8%と低く、さらに46.5%の患者さんが、減量を余儀なくされています。なお、ACTS-GC研究の詳細解析では、TS-1が、予定投与量の70%以上投与された患者さんの予後が良好であることが知られています。当院で、経験したStageII/III胃癌で、術後にTS-1による化学療法を受けられた患者さんを対象に、それらの患者さんの予後に関する因子を検討し、これらの患者さんの予後を向上させる方法を探索することを目的とします。

登録・研究の方法

2007年以降にStageII,III胃癌で、術後TS-1による補助化学療法を受けた患者さんを対象とします。データは当院消化器外科が集計分析し、結果を学術集会・学術論文に報告致します。詳しくは主治医にお聞きください。

倫理的配慮について

登録いただいたお名前やご住所などの個人を特定できる情報は入力いたしませんので、病院外に個人情報が出ることはなく、個人が特定されることは一切ありません。また、この入力には当院の医師と決められたスタッフのみが担当しますので、あなたのプライバシーは守られます。

登録・研究の詳細についての関連リンク

本研究の詳細などについては、当院消化器外科のホームページをご覧ください。

この登録・研究のデータベースに登録されるのを希望されない場合は、お手数ですが下記へご連絡ください。

連絡先:近畿大学医学部奈良病院 消化器外科 井上雅智 (担当:藤原由規)

電話 0743-77-0880